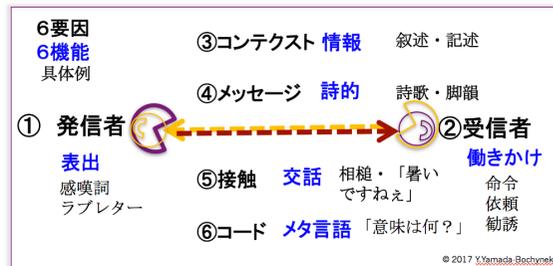


発表1 コミュニケーション場面論基盤のOJAEテストで「対話力」を鍛える

1.1 約60年来の「コミュニケーション」という語彙の使用➡再考 ヤコブソン (1960) コミュニケーション場面論—6要因・6機能



1.2 6機能(1960)➡32機能 オーサリバン他(2002) ➡OJAE口頭産出能力テスト53機能

1.3 OJAEの6大特長

- ① 被験者が主人公:被験者同士が「がっぷり四つ」に組む 
- ② 高信頼性:テストスクリプト(シナリオ)基盤で試験者の「腕」に左右されない
- ③ 高妥当性: OJAEテスト設計図「53機能」基盤のテスト問題の的確さ
- ④ 高実行性:各問題に応じて2評価領域に絞り「評価シート」使用
- ⑤ 評価基準表:階層性の明示化
- ⑥ フィードバック(FD):試験結果>被験者・教師双方への羅針盤



発表1 コミュニケーション場面論基盤のOJAEテストで「対話力」を鍛える

1.1 ヤコブソン (1960) コミュニケーション場面論—6要因・6機能

「コミュニケーション」再考 → OJAEテスト設計図「53機能」



JAKOBSON, R. (1960) "Closing Statement: Linguistics and Poetics" in SEBEOK, T. A. (ed.) *Style in Language*. New York: Sebeok, PP. 350-77.
 Cf.: KOCH, W.A. (1983) *Poetry and Science: Semiogenetic Twins – Towards an Integrated Correspondence Theory of Poetic Structures*. Tübingen: Narr.
 YAMADA-BOCHYNEK, Y. (1985) *Haiku East and West – A Semiogenetic Approach –*. Bochum: Brockmeyer. PP.22-27.

1.2 コミュニケーション場面：有効な言語機能群

R. Jakobson **6機能** (1960) →

B. O'Sullivan, **32機能** (2002) →

OJAE口頭産出テスト**53機能** (2010)

Barry O'Sullivan *The University of Reading*, **Cyril J. Weir** *University of Surrey, Roehampton* and **Nick Saville** *University of Cambridge Local Examinations Syndicate*

https://www.researchgate.net/publication/237225018_Using_observation_checklists_to_validate_speaking-test_tasks

「観察チェックリストを用いてスピーキング・テスト課題の妥当性を検証する」

オ・サリバン, バリー レディング大学; シリル, J. ウィヤー サレー大学ローハンプトン;
ニック・サヴィール ケンブリッジ大学ローカル試験連合

序文日本語訳: 山田ボヒネック頼子

テスト課題に関する**妥当性の検証**は、近來のケンブリッジ大学ローカル試験連合(UCLES)にとって修正プロジェクト群の中でも困難点の一つである。本論文は、これまで比較的に見過ごされてきた**「試験作成側が予測する回答と受験者側からの回答実例」**がどのくらい合致するかというテスト問題の**妥当性**に関する領域を扱う。すなわち口頭産出能力の基盤となる言語機能群の青写真/設計図に焦点を当てるわけである。この目的のためにスピーキングテストの回答の**「事前・事後分析用」ためのチェックリスト**が開発された。このチェックリストにより、試験者は受験者の回答中に一定の言語機能が産出されているか否かをリアルタイムで走査することができる。通常書き起こしは、時間も手間もかかり時として分析には不十分なものであるが、それが不必要になる。以下、本チェックリストの開発の経緯・結果、意義、可能な応用領域について記す。

53機能群＋CEFR準拠階層性

OJAE

テスト作成 設計図

コミュニケーション臨場場面：
4領域と細分53機能項目

→「～ができる」のテスト課題
創成基盤：

OJAEテスト・評価法のレベル
色別（濃淡でレベル高低を上
下で表示：

A:ピンク系
B:グリーン系
C:黄色系

Cf. O'SULLIVAN, B. et al. 2002,
"Using observation checklist
to validate speaking-test tasks".

OJAEテスト作成 設計図
Blueprint 14.10.2010 akt.26.03.17

OJAE Team
Stand: 26.03.17

言語行為 Speech Act	通し 番号	コミュニケーション場面理論*を基盤にするOJAEテスト作成設計図 * Cf. JAKOBSON, Roman (1960), KISHITANI, Shoko (1969), KOCH, Walter A. (1976), O'SULLIVAN, Barry et al. (2002)						
		A1	A2	B1	B2	C1	C2	
		言語機能		Linguistic Functions				
I. 情報 発信 Informational	1	初対面の挨拶をする	Greeting by meeting someone new	X				
	2	自分のことについて話す	Talking about oneself	X				
	3	指示語 I (具象的コ・ソ範列)	Deixis I: Ko-so-Paradigm	X				
	4	好き嫌いを話す	Stating Liking-Disliking		X			
	5	未来のことについて話す	Stating about future		X			
	6	感情を表現する	Expressing one's emotion		X			
	7	描写する	Describing		X			
	8	比較する	Comparing			X		
	9	意見を言う	Expressing opinions			X		
	10	理由づける	Justifying opinions			X		
	11	過程を説明する	Explaining a procedure				X	
	12	提案する	Suggesting				X	
	13	指示語 II (コソア:前方/後方照応)	Deixis II Ko-so-a Paradigm + Anaphora/Kataphora				X	
	14	モダリティ表現 (証拠性・蓋然性)を使う	Using evidential markers				X	
	15	考えを述べる	Stating one's thought				X	
	16	推測する	Speculating					X
	17	エラボレートする (詳細に述べる)	Elaborating					X
	18	要約する	Summarising					X
	19	他者の感情・考えを述べる	Describe other people's feelings and thoughts					X
	20	最適・簡明に且つ楽々と表現する	Expressing oneself with precision appropriately, and effortlessly					X
	21	ニュアンス・含意の相違、慣用表現なども使い分ける	Differentiating finer shades of meanings, connotations, idioms					X
	22	根拠や論点を一貫して論じる	Arguing logically with coherent grounds and points					X
II. やり取り Inter- actional	23	Yes-No疑問を発する	Asking Yes-No-Questions	X				
	24	Yes-No-Questioning	Answering Yes-No-Questions	X				
	25	(疑問詞も使って)発問する	Asking for information (including WH-questions)		X			
	26	疑問詞の質問に答える	Answering WH-questions		X			
	27	意見を求める	Asking for opinions			X		
	28	賛意を述べる	Agreeing			X		
	29	異義を唱える	Disagreeing			X		
	30	人物インタビューをする	Interviewing someone				X	
	31	説得する	Persuading					X
	32	補充する	Modifying					X
	33	相手の反応を確認しながら、うまく自分の案を提案できる	Suggesting/Proposing ideas, while checking the responses of the partner					X
	34	違和感を起こさせずやり取りができる	Interacting so smoothly that the interlocutor receives hardly any awkwardness					X
	III. 意味交渉 Negotiating meaning	35	理解の確認をする	Check understanding		X		
36		理解を合図する	Indicate understanding		X			
37		共通基盤を確立する	Establish common ground		X			
38		明確さを求める	Request clarification			X		
39		発言を訂正する	Correct own utterances			X		
40		明確さを求められた際、対処する	Elucidate further when requested				X	
41		メタ言語(高次談話構築手段)が駆使できる	Employ meta-language skillfully					X
IV. やり取り管理 Managing interaction		42	話しを始める	Initiating a conversation			X	
	43	話しを終わる	Ending a conversation			X		
	44	一致協力し合う	Reciprocating			X		
	45	決定する	Deciding			X		
	46	場面を適切に把握して話しを進める	Pacing & leading the given communication situation appropriately				X	
	IV. 社会言語的 適切さ Socio- linguistic appropri- ateness	47	対者敬語 I (丁寧語=社交語 です・ます調)	Person-oriented Honorifics I (desu, masu)	X			
48		授受表現 (～もらう/～あげる)	Receiving/Giving goods			X		
49		待遇表現 常体/敬体を区別	Sociatives Informal/Formal					X
50		恩恵表現 (～してくれる/～してあげる)	Receiving/Giving benefits					X
51		婉曲表現	Euphemistic expressions evading "directness"					X
52		対者敬語 II (でございます)	Person-oriented Honorifics II (de gozaimasu)					X
53		素材敬語 (尊敬語・謙譲語)	Content-oriented Honorifics					X

1.3 OJAE6大特長

①テストの主人公は被験者2名：被験者同士が「がっぷり四つ」に組む



1) テストの主人公である被験者同士がそれぞれ「自分のことば」で語り、相手と「がっぷり四つ」に組む—従来の口頭能力テストとは根本的に異なる。(第3発表②参照)

2) 対話：発話は「独話」と双方向発話の「交話」。両者は真摯に課題について意見を述べ合う。

A1レベルでは、相槌など「受け答え」も評価する。

B2レベル以上で意識的な回避や非用などが観察される場合には、柔道の試合の「指導」に相当の「反則」と判定し、不合格とする。



1.2 OJAE6大特長

②高信頼性: テストスクリプト(シナリオ)採択 → 試験結果は試験者の「腕」に左右されない



テストスクリプト

Testレベル	必要時間	部	独・交	設計図	タスク	タスク提示書き	プロンプト
	17分					「今日は、私は（試験者の名前）です。あの方は（記録者の名前）です。よろしくお願ひします。」 (被験者Aに)「お名前は?」 (被験者Bに)「お名前は?」 試験者「フェイス・シートをください」	
B2	0.5+1.5分×2)=3.5分(残り13.5分)	I-1	交話	25 23 24	話し相手を(第3者に)紹介するためのインタビュー準備と実施 (被験者ABに) これから、お二人に、それぞれ、相手の人の紹介をして戴きます。相手にいろいろ質問して、それから私に紹介してください。 まず、インタビューの準備として、相手にどんな質問をすればその人の特徴が聞き出せるか、ちょっと考えてください。必要ならメモを取っても良いです。 時間は、準備が30秒、インタビューが1分半、紹介が1分です。では、それぞれ、インタビューの準備をしてください。 <u>(0.5分後)</u> いいですか? (被験者Aに)「では、インタビューを始めて下さい。」 (Bに)「答えたくない質問は、答えなくても結構です。」 <u>(AはBをインタビュー)</u> 「……………」	メモ用紙を渡す	

1.2 OJAE6大特長

⑤評価基準表:階層性の明示化 (第2発表B2:酒井参照)

⑥フィードバック(FD):試験結果 > 被験者・教師双方への羅針盤

EiJaLE European Institute for
Japanese Language Education
ヨーロッパ日本語教育学研究所

OJAE テスト結果・フィードバック用紙

テストレベル : A1-A2-B1-**B2**-C1-C2



CEFR準拠
日本語口頭産出能力評価法
Oral Japanese Assessment Europe
Essener Str. 14
10555 Berlin, Germany
<https://ejale.wordpress.com/>

合格！おめでとう！ / 不合格：次は_____をがんばろう！

試験者		記録者	
受験者		日本語学習歴	母語/媒介語
ピア受験者		日本語学習歴	母語/媒介語
採録データ	日時	会場:	
	Video-No.	文字化 No.	

		使用幅	正確さ	流暢性	結束性	交話力
レベル 評価	I-1	○ 1 ×	○ 1 ×			
	I-2		○ 1 ×	○ 1 ×		
	II			○ 1 ×	○ 1 ×	
	III	○ 1 ×				○ 1 ×
	IV				○ 1 ×	○ 1 ×
領域別コメント			課題達成度	1 _____	5 _____	10:コメント
			合・否	1=1点;X=0点 採点総項目=10項目 /10点満点		
				60% 合格=6点以上:あなたの得点 点		